

(2) 取り組み

調べる手段の指導

(低学年)

- ・ 体を使って調べる（五つの感覚器官の活用）。
生活科の観察指導を生かす場となる。

(中学年)

- ・ 調べる方法を身につける（実地見学・本・インターネットで）。
- ・ 調べたことを自分なりに理解する（国語辞典・漢和辞典の活用）。
- ・ 自分の知っていることと比較観察する。

(高学年)

- ・ 調べる方法を使いこなす（実地見学・本・インターネットで）。
- ・ 対照実験や比較実験などを活用する。
- ・ 調べたことを自分なりの考え（理由をつけて）を持って、説明する。
中・高学年では、国語・理科・社会などの教科指導を生かす場となる。
わからないことはわからないでよい。

やってみる（実践）の指導

(低学年)

- ・ いろいろなことに挑戦する。
工作など自分が好きなことに挑戦してみる。

(中学年)

- ・ 調べたことを実際にやってみて検証する。

(高学年)

- ・ 結果を予測し実践しながら、いろいろ調べてみる。

【留意点】

a) 結果にこだわらせない。

結論が出なくても良いことを強調し、過程を大切にします。結論が出ない場合は、自分なりに考えて、「どこが失敗だったのか」失敗例を記録にまとめることも大切です。

b) 調べ学習で終わらせない。（高学年）

インターネット等で調べただけで終わりでは、研究ではありません。課題を解決するために調べて、調べた方法を実際に「やってみる（実践してみる）」ことが大切です。

(3) 記録のとり方の指導

ただの工作や調べ学習にしないためにも記録のとり方がポイントになります。

低学年～方法、良くできたところなどをノートやレポート用紙に記録する。
中学年～記録のとり方を工夫させる。写真や絵などを入れて他の人が見て、わかりやすいまとめにさせる。

高学年～中学年までの指導に加えて、考察の記録について重点的に指導する。

【留意点】

3年生以上では、見やすい表現の仕方、ポスターセッション（国語 資料編 P 6 9 参照）などを参考に指導します。